



chapter

1

# イントロダクション

FileMaker(ファイルメーカー)は、使いやすさで定評のあるデータベースソフトウェアです。手軽にデータベースの作成や更新ができて、ユーザーインターフェイスの作成も容易であり、スクリプトや関数、プラグインなどを使用して機能を拡張できます。また、実用的なネットワーク共有機能を備え、データベースをWeb上で公開することも可能です。ここでは、FileMakerの特長や製品構成を紹介し、さらにWeb公開機能の概要および仕組みについて解説します。

## 1.1 FileMakerの特長

FileMaker(ファイルメーカー)の特長は、利用者の要求と変化にすぐに対応できる、使いやすい開発環境であることです。

FileMakerで作ったデータベースは、FileMaker Proで複数のユーザーで共有できるほか、プログラミングを行うことなくWebデータベースとして利用することができます。また、カスタムWeb公開機能により本格的なWebアプリケーションに発展させることもできます。

デスクトップでデータベースを作りながら、使う人が自らのニーズに応じて発展・拡張していきける使いやすい開発環境。生産性が高く、情報共有とデータの一元管理を容易に実現できる柔軟なプラットフォーム。このようなシステムはFileMaker以外にはありません。

### 01

#### イントロダクション



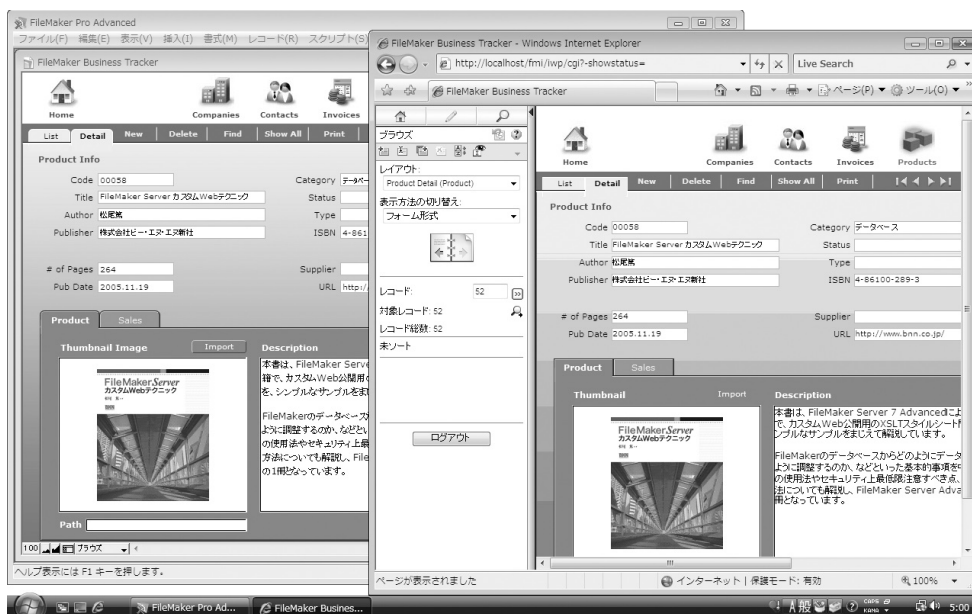
FileMaker Pro の画面例

FileMaker Proは、世界中で利用されているワークグループ向けデータベースであり、使いやすさと生産性の高さに定評のあるソフトウェアです。20年以上に渡って改良が続けられていて、使いやすさを損なわずに、高度な要求にも応えてくれる拡張性を備えています。簡単かつ柔軟にデータベースとユーザーインターフェイスを作成できるFileMaker Proは、何よりも使いやすさが重視されています。専門の技術者ではなく、実務に従事している人のために設計されているので、使いやすくして生産性の高いものが実現され、短期間で実務に使えるデータベースを構築できます。そして、単に使いやすいだけでなく、実用的なネットワーク共有機能も備えているので、複数のユーザーで利用するシステムにも適しているのです。

## 1.2 FileMakerによるWeb公開の手法とその種類

FileMaker Proデータベースと連動したWebアプリケーションを構築する手法には、複数の方法が用意されています。インスタントWeb公開、カスタムWeb公開、ODBCおよびJDBCです。これらの手法のうちいずれかを選んで、もしくは複数を組み合わせて、Webブラウザから利用できるアプリケーションを作ることができます。

インスタントWeb公開は、FileMaker Proで定義したレイアウトをほぼそのままにWebブラウザから利用できる画期的な機能です。データベースエンジンが刷新されたバージョン7以降で飛躍的に機能が向上し、HTMLやプログラミングに関する知識がなくても、データベースと連動したWebアプリケーションを開発できます。ただし、機能や表示方法を細かく制御することができず、1ページで表示されるレコード数を自由に変更することができません。WebブラウザではJavaScriptが使用可能になっていなければならない、サポートされているWebブラウザも限られています。そのため、不特定多数の利用者を対象としたWebサイトや、携帯電話向けのサイトを構築したい場合などには、インスタントWeb公開ではなくカスタムWeb公開やODBC/JDBCの利用を検討することになります。



インスタント Web 公開では FileMaker Pro で定義したレイアウトを利用可能

カスタム Web 公開は、HTML やプログラミングに関する知識のある開発者向けに用意されている機能であり、Web 標準技術を活用して機能拡張や表示の調整ができるようになっています。インスタント Web 公開のように FileMaker Pro で定義したレイアウトをそのまま利用することはできませんが、FileMaker 独自の命令や関数が用意されていて、執筆時点(2008年9月)で最新バージョンであるバージョン9では標準でPHPとXSLTに対応しています。その他に標準規格であるODBCやJDBCを使用する方法もあり、これらの方法を利用した場合にはFileMaker Pro データベースに対してSQLで制御することも可能です。

本書ではXSLTを使用したカスタム Web 公開について主に扱いますが、上述のようにFileMakerのWeb公開にはさまざまな手法が用意されていて、インスタント Web 公開に見られるような使いやすさだけでなく、各種 Web 関連技術を活用できる拡張性も備えています。

## 1.3 FileMaker の製品構成

FileMaker の製品ラインは、FileMaker Pro と FileMaker Server の 2 種類に大別され、それぞれさらに Advanced 版があるという構成になっています。

「FileMaker Pro」および「FileMaker Pro Advanced」は、FileMaker Pro データベースを作成するにあたってまず必要となるものです。FileMaker Pro Advanced は、FileMaker Pro の機能強化版であり、開発者向けのツールやユーティリティが統合されています。

サーバー製品である「FileMaker Server」と「FileMaker Server Advanced」は、FileMaker Pro データベースを複数のクライアントで共有することに特化したサーバーソフトウェアです。FileMaker Server Advanced は、FileMaker Server の機能強化版であり、インスタント Web 公開機能の使用および ODBC/JDBC データソースとして利用することができます。

注意

サーバー製品では FileMaker Pro データベースを作成できないため、データベースの作成および保守には FileMaker Pro もしくは FileMaker Pro Advanced が必要です。

表 1-1 ● FileMaker 9 製品ラインのサーバー機能比較表

	FileMaker Pro 9	FileMaker Pro 9 Advanced	FileMaker Server 9	FileMaker Server 9 Advanced
FileMaker ネットワーク共有	○	○	◎	◎
インスタント Web 公開	○	○	×	◎
カスタム Web 公開	×	×	◎	◎
ODBC/JDBC データソース	×	×	×	◎

表 1-1 は、執筆時点 (2008 年 9 月) で最新版である FileMaker 9 製品ラインのサーバー機能比較表です。バージョン 9 では通常版の FileMaker Server でもカスタム Web 公開機能を利用できるようになったため、FileMaker Server 9 および FileMaker Server 9 Advanced のいずれかを使用することでカスタム Web 公開機能を利用することが可能です。

なお、バージョン 8 およびそれ以前の FileMaker Server ではカスタム Web 公開機能はサポートされていません。そのため、不特定多数のユーザーを対象に Web 公開を行う場合や、同時にデータベースを使用するユーザーが多い場合、および独自のデザインや機能を持った Web サイトを作成したい場合などには、FileMaker Server ではなく FileMaker Server Advanced を利用する必要があります。